

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月23日

【評価実施概要】

事業所番号	0990600017		
法人名	医療法人修和会		
事業所名	塩野室ハウス		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504-20 (電話) 0288-26-8770		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年2月27日	評価確定日	平成20年4月23日

【情報提供票より】(平成20年2月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算4.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	<ul style="list-style-type: none"> ・理美容代—2,000円 ・おむつ代—実費 ・おむつ処理代—実費 ・光熱水費—700円/1日 	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(80,000円)	有りの場合償却の有無	無(修繕費を差し引き、退居時に返還)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成20年2月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80.44 歳	最低	70 歳	最高	88 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人修和会 石塚クリニック
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、この地でクリニックを開業している医療法人が地域貢献という思いから開設された。理事長は、職員の向上心を大切に考えており、管理者は研修等にも積極的に職員を参加させている。開設に当たっては、全職員で自分たちの理想のホームの姿、大切にしたいことを話し合い、思いを共有している。また、毎月のカンファレンス(職員会議)は、当初は夕方に開始して深夜をまわることが多々あるなど、職員全員でホームをつくり上げてきている一体感があり、職員は明るく、入居者との生活を楽しんでいる。また、管理者は積極的に地域の方々や同業者などに働きかけ、ホームで出かける時に連絡しておいて、他事業所と合流するなどの独特の取り組みもしている。地域の中での福祉拠点、何気なく寄ってもらえるホームを目指しているホームである。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価の実施である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価にあたっては、評価基準を全職員に配布し、夜勤などのときにそれぞれに書いてもらい、最終的に管理者がまとめた。今回の取組みが、日頃のケアを振り返る良いきっかけになったと考えている。今回の外部評価の結果は運営推進会議にも報告する予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>家族代表、地域の方(自治会、消防団)、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。これらの方々とは普段から関わっていることから、会議の開催回数は多いとはいえないが、1回目から具体的な助言などももらっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に健康状態や日頃の暮らしぶりを報告している。利用料等の請求時に手紙を添えることもある。ホーム内の大きな掲示板に行事の際などの入居者の写真を飾っている。個人別のアルバムもつくっている。預り金はパソコンで管理し、毎月家族に報告している。重要事項説明書にホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の連絡先を明記している。運営規程、重要事項説明書は時間をかけて作成され、全体的に分かりやすい言葉で書かれている。これまで苦情はないが、家族等から要望があったときは、その都度対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、地域の伝統行事などに積極的に参加している。地元の社会福祉協議会が開催した高齢者交流会に入居者と一緒に参加したり、管理者が企画協力したりもしている。近所のお宅に行き、柿をもらったりもしている。訪問日には民生委員からもらった花木を入居者と一緒にはげている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員それぞれが大切にしたいことを持ち寄り、模造紙上で作業をしながら、話し合っ、理念としての「私たちが目指すもの」、基本方針としての「私たちの思い」をまとめ上げた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念・基本方針の作成自体を全職員で取り組んでおり、またホーム内の事務室や職員用トイレにも張り出すなどして折に触れて確認できるようにしている。地域の中に積極的に出掛けていたりしながら日々の実践の中で目指すべき姿に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の伝統行事などに積極的に参加している。地域の社会福祉協議会が開催した高齢者交流会に入居者と一緒に参加したり、管理者が企画協力したりもしている。近所のお宅に行って、柿をもらったりもしている。訪問日には民生委員からもらった花木を入居者と一緒に生けていた。	○	開設から1年未満ではあるが、地域に積極的に働きかけ関係をつくってきている。ホームの理念は地域の中での福祉の拠点になることであり、近所の方が肩肘張らずに気軽に訪れるホームづくりを目指しているため、今後も少しずつ地域の方々との交流を深めていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価・自己評価の取り組みは今回が初めてである。今回の自己評価にあたっては、評価基準を全職員に配布し、夜勤などのときにそれぞれに書いてもらい、最終的に管理者がまとめた。今回の取り組みが、日頃のケアを振り返る良いきっかけになったと考えている。今回の外部評価の結果は運営推進会議にも報告する予定である。		

塩野室ハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、地域の方（自治会、消防団）、市職員、地域包括支援センター職員に参加してもらっている。これらの方々は普段から関わっていることから、会議の開催回数は多いとはいえないが、1回目から具体的な助言などももらっている。	○	会議の回数を増やしたり、会議を花見などのホーム行事とあわせて開催することなども検討している。運営推進会議の場も積極的に活用しながら、当ホームの理念である地域の福祉拠点を目指していくことに期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となって、市の担当者ともまめに連絡をとっている。社会福祉協議会の事業に参画したりもしている。民生委員の集まりなどでもホームや認知症のことを知ってもらおう話をしたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時に健康状態や日頃の暮らしぶりを報告している。利用料等の請求時に手紙を添えることもある。ホーム内の大きな掲示板に行事の際などの入居者の写真を飾っている。個人別のアルバムもつくっている。預り金はパソコンで管理し、毎月家族に報告している。	○	ホームだより（おたより）の発行や掲示板に職員の顔と名前を掲示する準備をしているので、家族とのより良い信頼関係を深めるという意味でも、その実現に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム、市、国保連、県運営適正化委員会の連絡先を明記している。運営規程、重要事項説明書は時間をかけて作成され、全体的に分かりやすい言葉で書かれている。これまで苦情はないが、家族等から要望があったときは、その都度対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに1人の退職があったが、新しい職員をまわりの職員がサポートしながら入居者にダメージのないように配慮している。月に1回開催しているカンファレンス（職員会議）は、当初は17：30から24：00（現在は22：00ぐらいまで）過ぎまで実施されており、その会議でまたは普段の仕事の中で、活発な議論、不安の解決などの話し合いが行われ、職員間の連帯感が高い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は採用時に向上心があることを大切にしている。外部研修は、希望を募ったり管理者が指名して参加し、参加後は報告書の作成、他職員への伝達など研修内容の共有に努めている。認知症介護実践研修にも職員を積極的に参加させている。また、カンファレンス（職員会議）のときに勉強会的な時間を持つこともある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。その他、市内外の同業者と積極的に交流を持ち、実習や見学など職員も含めて行ったり来たりの関係を作っている。外出をするときなど、近くの事業所に連絡して一緒に楽しむことなどもしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込があったときは自宅を訪問してこれまでの生活環境や家族の状況などを把握している。また、ホームに本人にも来てもらい雰囲気を覚えてもらうようにしている。入居後は全職員が記録などからその人を知り、かかわりを多くしながらホームでの生活に徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理やお菓子づくり、畑仕事、歌、飾り物づくりなど、入居者と一緒に行う場面をつくっている。訪問時にもソファで入居者に寄り添いながら一緒に飾り物づくりをしている職員の姿が見られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一部、センター方式のアセスメント様式を使いながら本人のこれまでの生活や気持ちを把握するように努めている。会話の中で思いを把握するように努めたり、記録様式も客観的なできごとを記すものの他に、本人の会話や職員の気づきなどを記す様式を使い本人の思いや意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望も踏まえながら、毎月のカンファレンスで職員の気づきも加えながら介護計画を作成している。カンファレンスでは、全職員で話し合いをするが、模造紙を使って課題を焦点化して検討を進めるなどの工夫もしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスで検討をしている。計画作成後は家族に説明をしている。今後、話し合いの段階での家族の参画なども検討している。	○	介護計画の様式はオリジナルのものを使用している。介護計画作成後は家族に説明して、了解してもらっているがサイン等をする欄がない。家族と一緒に入居者の生活を支えていく意識を高めるという意味でも、本人・家族の希望という支援の根拠を明確にしたり、お互いに了解して支援を進めていくという意味での確認をもらっておくための様式の検討を期待したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	検討段階ではあるが、将来的には医療連携体制加算の指定を受けることも視野に入れ、重要事項説明書で料金のことも含めて明記している。入居者家族、民生委員や職員の家族、ボランティアなどの協力も得ながら柔軟な支援に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。主治医を協力医療機関である同法人のクリニックに代える方が多く、通院は職員が対応している。従前のかかりつけ医を引き続き受診するときは家族に付き添いをお願いしているが、その際は家族と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在の入居者の状況からは、重度化や終末期ということが喫緊の課題とはなっておらず、職員間での話し合いも特には行われていない。例えば、お風呂、トイレ等の介助が2人がかりになったら入居の継続について家族と話し合うこととしている。管理者は、重度化などに対応していくためには、職員のレベルアップも必要と考えている。	○	カンファレンスなどで職員間の意見交換、意識合わせなどが良く行われているので、現時点では想像しにくくとも、ホームとしてどこまで対応するのか、対応するとなった時には必要なものは何かなど、基本的方針を明らかにしておくことも期待したい。また、本人・家族の安心のためにも、折に触れてホームの考え方や対応方針を説明していくことにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の前で他の入居者のケア上のことを話さないようにしたり、お伺いするように話しかけるなどプライバシーやプライドに配慮した支援を心がけている。トイレに暖簾をかけるなどの配慮もしている。個人記録などは事務室で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション的なことも取り入れているが、「日課」として行うのではなく、その時の入居者の気持ち等に合わせて支援している。訪問日も、歌を歌う方、テレビを見る方、新聞を見る方など、入居者それぞれが思い思いに過ごしていた。		

塩野室ハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に同じ物を食している。入居者、また職員の誕生日には、誕生日の人が好きなものをリクエストできるようにしている。掲示板には、入居者・職員一緒に楽しそうにホットプレートでやさそばを焼いている写真が飾られていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日3名ずつを目安に、14:00から16:00ぐらいの時間帯に支援している。入浴前に着替えを準備するところから職員が支援している。夏場などは、毎日入浴を希望する方がいるときなどには要望にそった支援ができるように配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物干し・たたみ、調理、おやつづくり、編み物、畑仕事、歌、計算ドリルなど、入居者一人ひとりにあわせて役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩、行事的な外出など外出の機会を作っている。玄関に鍵を閉めていないので、掃除の際に玄関先まで掃除をする方もいる。地域行事などにも積極的に出掛けていっている。	○	ホームには1台車があるが、さらにもう1台追加される予定である。また、運営推進会議では、外出の時に家族が支援しても良いのではとの意見も出ている。地域のサロンのあり方も検討しているので、様々な工夫をしたり、助けをかりたりしながら、入居者の状態などが変わっても地域や社会とつながった生活支援を継続していく体制づくりを少しずつしていくことにも期待したい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りなどで、玄関等に鍵を掛けないケアを実践している。夜間は防犯の為に鍵を掛けている。駐在所の警官がホームに寄ってくれる関係にもなっている。		

塩野室ハウス

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設以来、2回避難訓練を実施した。消防署とも連携し、開設前には救急時の対応方法も学び、リビングにはテキストが提示され、緊急時の連絡先なども掲出されていた。地元消防団の方に運営推進会議に参加してもらい、また緊急時の応援もお願いしている。スプリンクラーが設置されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者がこれまでの仕事の関係で取り溜めておいたカロリー計算された献立表（5年分ぐらい）を参考にしながら、好みなどにも配慮して食事を提供している。業務日誌に食事、水分の摂取を記録する欄を設けて記録している。体重測定も行っている。	○	入居者の好みや習慣を踏まえ、各職員のアイデアで食事を提供することを大切にしつつ、定期的に栄養の専門的な見地からアドバイスをもらうことなどの検討にも期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には季節の花や手作りの飾り物が飾られていた。訪問日には民生委員の方からもらったネコヤナギを入居者と一緒に生けていた。日差しをよけるためにレースカーテンの一部に手を加えている。テレビや音楽の音の大きさにも配慮している。24時間換気システムがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れたものを持ってきてもらうように話をしている。入居前にお宅を訪問して、入居後の環境づくりについての話をしてくることもある。持ち込みの多寡は異なるが、仏壇などを持ってきている方もいる。テレビの配線はされていないが、入居時に説明をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。